

## 1 道徳科の授業構想

道徳科の学習は、児童生徒が道徳的な課題を自らの問題として捉え、道徳的価値に対して自分の考えをもち、自己の生き方について考えを深めることができるようにすることが大切です。それは、様々な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考え、授業の中で、異なる意見や教材の中の様々な生き方に会いながら、自分の考え方や感じ方を見つめ直し、自分の生き方について考えることができるようにするためです。

児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするためには、思考や話し合いを深める必要があります。発問の内容や構成は重要です。発問によって児童生徒の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出されるからです。

道徳科の授業の構想を次に示します。

<b>基本発問</b>	ねらいを達成するために欠かせない発問。 ねらいとする道徳的価値に関わる発問や主人公の生き方・感じ方や考え方を問う発問など。
<b>中心発問</b>	ねらいに迫るために特に重要な発問であり、ねらいとする道徳的価値や物事を自分との関わりで考え、児童生徒から多様な考えを引き出し、友だちとの考えと比較・検討すること等を通して、自己を見つめ自己の生き方について深く考えるようにするための発問。
<b>補助発問</b>	多様な感じ方や考え方を十分に引き出せなかった場合に、物事を多面的・多角的に考えさせるため、少し違った視点から問い直したり、揺さぶりをかけたりして、批判的に問い返し、思考を深めたりする発問。



①ねらいとする道徳的価値について、理解を深める。

### 内容項目の理解

- ・指導すべき内容の理解
- ・学年段階の重点の把握



②ねらいに関して、子どもにどのようなよさや課題があるのかを考える。

### 児童生徒の現状を把握

- ・内容項目に関わって、どのような指導を行ってきたか。
- ・その結果、どのような成長や課題があるのか。



③子どものよさや課題を踏まえて、授業で子どもにどのようなことを考えられるようにするのかを吟味する。

### ねらいの明確化

- ・何に気づいてほしいのか
- ・何を考えてほしいのか。
- ・判断力、心情、態度等のどれを中心に考えるのか。



### 学習指導過程の構成

#### 発問の構成例

**基本発問**  
(必要に応じて)

**中心発問**

**補助発問**  
(児童生徒の反応に合わせて)

**基本発問**  
(必要に応じて)

※中心発問の前後に発問が必要な場合もあれば、中心発問の前に2つ必要な場合もある。

中心発問に対する、期待する児童生徒の意識等を考えることが大切です。

「ねらい」が明確な発問構成を考える

#### 指導方法の工夫

#### 板書の工夫

参考

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P78～ 授業改善 指導の手引き (草津市作成) P5  
中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P76～ 評価と授業づくり 指導の手引き (草津市作成) P13

## 2 道徳科の授業改善の工夫

「考え、対話する草津の道徳科」では、自分と対話したり、他者と対話したりすることで、道徳的な問いや学習課題を追求できるように、次のことに留意して授業改善をしていきます。後述の具体的な実践事例には、どの学年、どの教材でも活用できる授業改善のヒントを掲載しています。

### 学習活動

### 指導の工夫例

●児童生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合いにつなぐ指導の工夫をします。



#### つかむ

どんなことを学習するのか、道徳的な問いや学習課題を明らかにする。

#### 学習課題

#### 【アンケートの活用】



アンケート調査等の結果を提示し、価値に対する揺さぶりをかける。

#### 【経験の想起】



ねらいとする道徳的価値の内容に関する場面絵や写真等を提示し、経験を想起する。

#### 【教材の事前提示】



児童生徒の感想等から道徳的問いを考えたり、教材に対する興味や関心を高めたりする。

#### 【身の回りの問題提示】

誠実であることがいつも大切だとわかっているのに、誠実でいられないのはどうしてだろう。



身近な生活における問題や社会問題など、道徳的価値に対する問題意識をもたせる。

●話し合いに必然性を持たせ、多面的・多角的に考えることができるように指導の工夫をします。



#### 考える・話し合う

学習課題について、教材を読んで話し合い、ねらいとする道徳的価値を自分と関わらせて考え、道徳的価値についての理解や自覚を深める。また、友だちと話し合い、多面的・多角的に考える。道徳的価値を自分の問題として受け止めて、今までの自分と向き合い、これからの生き方を見つめる。

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えを整理したり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりする。

#### 効果的な話し合いの場の工夫



友達の意見に質問をしたり、感想を述べたりして、意見を交流する。



付箋紙を活用し、意見を類型化しながら話し合う。

#### 話し合いにつなぐ個の見取り



個々の考えを座席表に記入し、話し合いに活用する。

#### 登場人物に自分を重ねて考える工夫



役割演技を活用し、登場人物に自分を重ねて考える。



登場人物に自分を重ねて考えることができるようにし、インタビュー形式で尋ねる。



児童生徒の考えを類型化しながら、板書する。

#### 立場を明らかにした話し合いの工夫



自分の考えを気持ちメーターの目盛りや色で表示する。



自分の考えや気持ちを心情円で表示する。

#### 多様な考えに気づく工夫



友だちの考えを集約し、電子黒板で表示する。見を類型化しグループの考えを整理する。



KJ法を活用し、意図を整理する。

●学習課題に基づき、学びを自覚できるようにするために指導の工夫をします。



#### 見つめる・振り返る

追求した価値の確認・整理・まとめを行い、自己課題をもち、今後の発展につないだり、行為への意欲づけを図ったりして、今日の学習や自分自身を振り返る。



#### 学びの変容



振り返る視点の明確化



思考の足跡を構造化した板書の工夫

学習指導要領解説特別の教科 道徳編において、「教師による発問は、児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要である。発問によって児童生徒の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出される。そのためにも、考える必然性や切実感のある発問、自由な発想を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切である。」ことが示されています。発問の内容、数、順番、発問構成などを吟味し、効果的な発問を行うことが大切です。

### 発問

### 児童生徒の意識

●児童生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合いにつなぐ問いを考えます。

- ・興味や関心を起こさせる発問
- ・ねらいに関する経験や事実を問う発問
- ・教材に関する発問や説明
- ・考える視点をそろえる発問



- ・自分と関わりがありそうだと意識がもてる。
- ・何について考えればよいのかわかる。

### 学びの明確化

#### 学びの鍵

児童生徒の興味・関心や問題意識を高める工夫をすることで、道徳的問いや学習課題に対する必然性をつくる。

●明確な指導観をもち、学習課題につながる精査した問いの構成を考えることが大切です。

- ・登場人物の心情、判断、考え方などについての意見、問題点を問う発問
- ・児童生徒の発言や反応を生かした発問
- ・自分の考えは、どれに近いのかを問う発問

- ・登場人物に自分を重ねて、気持ちを語れる。
- ・多様な価値観にふれる。



- 【心情】  
・この場面での○○は、どのような気持ちだろう。 ・○○は、どんなことを思っているだろう。
- 【判断】  
・○○が○○したことをどう思うか。 ・○○がしたのは、正しい判断といえるのか。
- 【自分】  
・これまでの自分は、どうだっただろうか。 ・これから、どのようにしていけばよいだろうか。それは、なぜか。
- 【道徳的価値】  
・本当の友情とは、どのような関係だろう。 ・どうすれば、広い心がもてるのだろうか。
- 【教材】  
・この話から、どんなことが大切だと感じたか。 ・この話のどこが問題だろう。

- ・ねらいとする道徳的価値に関わって、今までの自分を見つめられるようにする発問

- 【直接経験】  
(○○したことがあるか、○○について考えたことがあるか)
- 【間接経験】  
(○○を見たことがあるか、○○を聞いたことがあるか)



- ・(前段で追求した価値に照らして) 今までの自分や今の自分はどうかを見つめる。

- ・その時の気持ちや考えを問う発問
- ・今、そのことをどう思うかを問う発問
- ・どうしてそのようにしたのかを問う発問

### 問いのスリム化

#### 学びの鍵

学習課題について考えるために、何を問うのか吟味する。発問を精査し、子どもの思考を深める発問を考える。

#### 学びの鍵

何を話し合うのかを明確にし、話し合い活動の工夫(どんなグループで、どんな方法で)をすることで、多様な考え方に触れることができるようにする。

- ・教師が話しすぎる。
- ・発問を何度も言い換える。
- ・あらすじを問う。
- ・教材文の内容のみで問う。



●学習課題に基づき、学びを自覚させるため問いをします。

- ・今日の授業についての学びを問う発問
- ・自己の変容や気づきについて問う発問



- ・振り返りの視点を明確にし、本時の学習を振り返る。

### 学びの自覚化

#### 学びの鍵

道徳的価値に対する思いや考えを整理したり、道徳的価値の実現のよさや難しさを確認したりして、自分との対話を深められるようにする。